

静岡・二之宮遺跡

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 所在地 | 静岡県磐田市二之宮 |
| 2 調査期間 | 一九七八年(昭53)九月～七九年 |
| 3 調査機関 | 磐田市教育委員会 |
| 4 調査担当者 | 平野和男・中嶋郁夫・山崎克己 |
| 5 遺跡の種類 | 不明 |
| 6 遺跡の時代 | 弥生時代～奈良時代 |
| 7 木簡出土遺構の概要 | |

本調査は、市街地を流れる久保川の激甚災害特別対策事業に伴う緊急調査である。調査は昭和五三年九月より五四年一月までの二ヶ年継続事業で現在も調査中である。発掘調査は静岡県袋井土木事務所の委託事業として磐田市教育委員会が主催し、平野・中嶋・山崎が担当した。

本遺跡は、磐田原台地南端部を占める、二之宮・御殿地内に存在が推定されていたが、本調査までは時代や規模については未確認で、調査区は久保川に架っている橋で区分し、小字名を附して、東から、中瀬区、中央区、折戸区、仙水区と呼称する。発掘作業は工事

木器は建材を始め織機、農具等、加工された木片が多く発掘された。特に貝塚附近から木簡(一号)と自然木の一面を削り経文を墨書した文龜二年の年号入りの塔婆一点が出土した。

折戸区 本区東端部の折戸橋附近を頂点として地山は西側にある大規模な開折谷に向って西に傾斜している。遺構は地山の高い部分に土壌群と溝状遺構が発掘された。遺物は、古墳時代後期から奈良時代の須恵器が主体で少量の弥生式土器片が混在している。加工木材が多数出土した、本区から木簡(三・四・五号)と墨書き土器片が数点出土している。

中瀬区 中央橋より東に山足の伸びた地域があり、地山は全体的にゆるく東に傾斜しながら東の開折谷へ向っている中央橋から約二〇mほど東によつた地点から谷に急傾斜している。中瀬地区は、弥生後期の土器が完形品を含み多数出土し、古墳時代以後の出土品は少量である。

計画上、中央区より始めた。各区の概要は次のとおりである。

中央区 本区の東端・中央橋附近に小規模な開折谷が入り込んでいるが、全体的には西方、折戸橋にかけて地山の洪積層が高くなっている。この地山の高い部分に、奈良時代の溝状遺構四条と多数の土壌群が発掘されたほか、貝塚が二個所発見された。本区の出土品は、少量の弥生式土器片・若干の中世陶器片のほかは、古墳時代後期から奈良時代の須恵器が多量に出土した。なお、奈良時代須恵器には数点の墨書き土器片が発見された。

1978年出土の木簡

遺構としては弥生期の柱穴群、土壙群、溝状遺構が数多く発掘された。柱穴には底部に礎板を使ったもの、柱根が残存しているもののがかなり発見された。溝に沿って長い杭列があり梁状遺構と推考される部分や池が作られ、導水のため木樋が設置されていた点が特に注目された。東端の急斜面には小礫が密集し敷石状遺構が発見されている。この部分からは奈良時代須恵器類とともに木簡一点(11号)が出土した。

以上のように、中央橋を境として東側には弥生時代、西は古墳後期から奈良時代の遺跡が認められている。

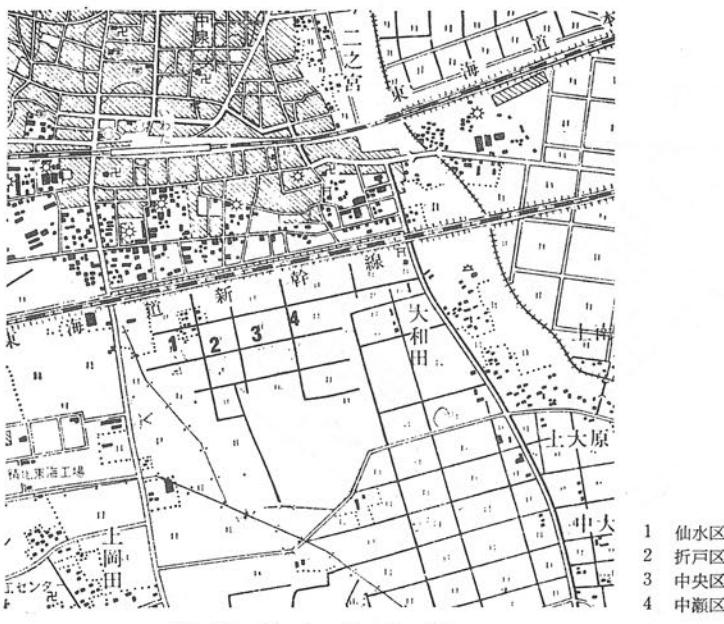
なお本調査は現在も継続中であり、資料の整理・検討が充分でないで木簡については釈文の紹介にとどめ精細については報告書にゆずりたい。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「大郷 小長谷部宮□」 168×32×3 011
(2) 「□^{鉢カ}東郷戸主文委部麻□」 (109)×19×3 019
(3) 「豊国郷戸主小長谷部色万因戸小長×」 (121)×21×3 081
(4) 「久米郷 □□□□」 (113)×18×3 011

木簡解説については平城宮跡発掘調査部史料室にお願したものである。

(平野和男・中嶋郁夫・山崎克己)



木簡出土地点図